

第3回安中市総合計画審議会 議事概要

(以下 敬称略)

- 【日 時】 平成29年9月28日(木) 午前10時～12時15分
- 【場 所】 市役所本庁第201会議室
- 【出席委員】 16名(小竹、田島、千葉、保々、大塚、上原(メ)、篠原、阿久津、三宅、武井、
高橋、恩幣、大平、吉田、神成、久保)
- 【欠席委員】 5名(小嶋、須藤、田村、上原(邦)、夢胡)
- 【事務局】 5名(総務部長、企画課長、企画調整係長、企画調整係担当職員2名)
- 【支援事業者】 2名(特定非営利活動法人NPOぐんま研究員)
- 【配布資料】 ・次第
・資料1:第2次安中市総合計画基本構想(素案)
・資料2:第2次安中市総合計画前期基本計画(素案)

【会議経過】

1. 開会(進行:企画課長)

2. 会長挨拶

3. 協議事項

〈会長〉協議に先立ち、阿久津、三宅の両委員を議事録署名人に指名したい。

〈委員一同〉異議なし。

(1) 第2次安中市総合計画基本構想(素案)について

〈資料1に基づきNPOぐんまより説明〉

①総論について

〈会長〉前回の骨子(案)から大きく変わった点として、例えばP.7(3)交通は、中山道を歩いて通っていた時代と、電車で動く時代にうまく分けられていると思う。関東からの人の出入りを厳しくチェックする関所の特殊性、しかも通常の関所と異なり、幕府直轄ではなく安中藩が管理を任されていたという安中ならではの特殊性もあると聞いている。しかし、そこまで書き込むのは難しいと思うので、このような内容の提案になったと思う。

〈委員〉前回から変更した部分は色を変えるなどして分かりやすくしてほしい。

〈委員〉P.21 政策大綱3に関連して、碓氷病院のあり方について。市内では治療できない傷病もあると思うので、市内で対応できる場合、できない場合にどうしたらよいか、病院の改革を含めて今後10年でどのように取り組むのか。病院の整備や維持のために余分なお金を使うのであれば、それを子育て支援などに投入して人口を増やしたり、ドクターヘリ

が降りられる場所を整備し、心臓、脳など傷病に応じてそこから県内の大きな病院に搬送したほうが良いという考え方もあると思うし、市民にとってはそのほうが幸せかもしれない。10年後を踏まえて、病院の施設や設備の整備よりも給食費無料化など、具体的にできることを書き込んだほうが良いと思う。第1次計画でも、良いことがたくさん書かれたが、本当に実行できたことがいくつあるのか。絵に描いた餅で終わらず、本当にできることから書き込んだほうが良いと思う。

〈会 長〉総合計画の性質上、いろいろなことを書き込む必要があることも理解してほしい。書き込むことで、国からの補助などの外的要因が期待できる場合もある。

〈事務局〉病院については、第2次安中市総合計画前期基本計画（素案）のP33.34が具体的内容になるので確認してほしい。

〈委 員〉国からの補助は当てにできないと思うので、自力で産業を発展させ、増えた税収などの自主財源で子育て支援の充実を図るなどしたほうが望ましいと思う。目標はたくさん示すよりも、いくつかに集約したほうが良いと思う。

〈委 員〉医療は、主に市町村を単位とする一次医療圏、県内を10圏域に分けた二次医療圏などを県が設定しており、県の考え方を踏まえた書き方を各論でしていく必要があると思う。また、県による病床規制の権限があり、市独自の取り組みが難しい中、それを踏まえて市内の医療資源を活用してどのような取組ができるかを検討する必要があると思う。

〈委 員〉P.7（3）交通について。安中は遠くに行くのには便利であるが、市内での移動はしにくいことがある。例えば、国道18号から文化センターへ行く道が狭い。勾配が急で雪が降ると登れない。

〈事務局〉文化センターは、安中城址であり、昔ながらの道が残っており、現在の利便性を考えると使いにくい面があると思う。その一方、そのような道の持つ歴史的価値を指摘する声も少なくない。

〈委 員〉安中大橋はつくる必要があったのか。

〈事務局〉安中大橋は、南北軸が弱いという意見等を多く受けて、都市計画決定したものである。南地区の区画整理は住民の同意等が得られず、現在はとん挫している状況である。

〈委 員〉交通については、新幹線安中榛名駅とのソフト・ハード両面のつながりや位置づけが曖昧だと思う。駅周辺（みのりが丘）には家が増えたが、他の地区の市民との交流が希薄で「陸の孤島」となっている感がある。各論の中で、そういう地区間の交流が進められ、市に馴染めるような取組があると良いと思う。取付道路ひとつ造るにも急こう配への対応や地権者の反対などを乗り越え、先人達が大変な苦勞をして整備した駅と新しい住宅地域であることを思いたい。

〈会 長〉各論におけるコミュニティのあり方に関する内容にもつながると思う。道の狭さについては、市民協働の視点を踏まえて各論で着地点を見出したい。

〈委 員〉安全についての内容が弱いと思う。異常気象で様々な災害が多発する中、市民を守るための安全が重要や、災害時の対応が重要である。総合計画は10年間の計画であるが、例えば商工会が中心となって湘南新宿ラインを誘致したり、観光協会が中心となって安中版DMOを設立したりするのに10年かかっている。まちづくりを考えると、10年間は短

いスパンであり、30 年などもう少し長いスパンでの考え方も必要だと思う。また、国や県などの規制の中で独自の取組がしにくくなっている中で、自分達の稼ぎによる歳入を増やす視点も重要だと思う。国や県に依存しすぎることなく、工場誘致をして雇用を増やすことにより所得税や事業収入を増やすなどの視点があり見えない。人口減少の中、常に働く場ということを考える必要があると思う。特区申請について考えても良いと思う。防災・防犯などの安全確保や人材育成など将来への投資についても考えていく必要があると思う。

〈委員〉安全について。安中は災害が少ないと言われるが、個々の地域によって差がある。地域ごとの災害対策やきめ細やかな施策が必要だと思う。平成の合併から 10 年、地域ごとに人口流出入、高齢化、暮らし、経済力、学校など、様々な差が出てきている。昭和 28 年の市町村合併まで遡ると、当時形成された 14 地区の 101 区長が行政補完的役割を担っているが、地区ごとの差は拡大している。各論の市民協働や地域コミュニティなどに関係してくると思うが、地域ごとのきめ細やかな現状把握と対応が必要だと思う。

〈事務局〉歳入面を増やす視点は、基本計画（素案）の P.75.76 が関連する。しかし、歳入を増やすことに特化した視点での記載はないので、産業・雇用政策での記載を含めて検討したい。

〈委員〉現在の安中市の歳入はどのような状況か。

〈事務局〉一般会計歳入が約 270 億円であり、そのうち市税収入は約 100 億円である。

〈委員〉自主財源を如何にして増やすか、そのための施策は何かを考えるべきだと思う。DMO では、地域資源を活用して観光客を呼び込み、消費を喚起するとともに、安中総合学園などにも商品開発などで協力してもらい、彼らが地域で起業することも期待している。それにより地域の収入も増える。安中に会社や工場を移したいという声を聞くが、そういうニーズに対して市としてどのように対応する考えなのか、受け皿としてのインフラも考えるべきだと思う。総論でそういう絵を示すことも重要だと思う。

〈委員〉安中は、大企業の影響もあり、市民一人当たり所得は高いが、高齢化の進行もあり、年金が地域経済を潤している側面もあると思う。それを逆手に取り、雇用機会の創造や所得の向上を図ることを考えても良いと思うし、それが協働にもつながると思う。高齢者に手伝ってもらいながら、少なくとも税金と社会保険料は納められるような所得が得られるような取組を進めるべきだと思う。また、定住人口は難しいとしても、交流人口を増やす方法はあるかもしれない。例えば、新島学園と関係が深く、約 3 万人の学生が通う同志社大学では新島襄伝が必須科目となっている。そこで、新島襄の故郷である安中に来ないと卒業できないような仕組みを提案したらどうかと思う。柏木義圓の墓がある西広寺から新島襄旧宅までの通りをプロムナード化し、きちんとした宿泊施設もできれば、同志社大学や同志社女子大学から多くの若い人達が訪れるようになると思う。同志社女子大学は全国有数の評価を得ており、NHK 大河ドラマ「八重の桜」の影響もあり、数年前に看護学部を開設した。実現のためには様々な努力が必要だと思うが、多くの学生が訪れると、交流人口の増加が期待できるし、観光資源の開発にもつながると思う。

〈委員〉特区申請のような仕組みを使って実現できないか。

〈委員〉同志社大学との提携で可能だと思う。もちろん遊びに来るのではなく、安中に来ること

によって、新島襄や安中の文教都市の先進性について学ぶことができる仕組みが必要である。新島襄記念館のような受け皿となる施設の整備も必要だと思う。

〈会 長〉サマースクールのような仕組みで一週間位滞在してもらえるようなツアーが組めると良いと思う。

〈委 員〉高崎市の榛名にある社会福祉法人新生会は、理事長が同志社大学出身のためか、あるゼミは2泊3日くらい必ず（学生が）介護実習で訪れている。新島襄が安中の資源であることは間違いないと思うので、知恵を働かせてその資源を活かすべきだと思う。

〈会 長〉選択必須で「安中学」をぜひつくってほしいものだ。

歳入について、P.8に財政についての記載があるが、どれだけ安中市内で稼げているかという自主財源については記載がない。ここで少しでも触れることも考えられる。ただし、国からの補助も国税を地方交付税で還流することなので、国から「もらう」という考え方ができる一方で、我々が支払った国税が「戻ってくる」という考え方もできる。そうすると、国からのお金も他人任せとは言い切れない側面があり、扱いが難しいと思う。

〈委 員〉協働や交流によって雇用や所得獲得機会を増やし、市民一人ひとりの所得を上げることが重要だと思う。

〈委 員〉それが働き方改革や生産性の向上につながると思う。

〈委 員〉これまで社会を支えてきた団塊世代が高齢者になり、さらにその子ども達の世代である団塊ジュニアが約20年後には高齢者となり年金をもらい、介護を受けるようになる。そのような中、国は「我が事・丸ごと」地域で支えるという考え方を示してきた。これは地域への「丸投げ」とも受け取れるが、安中は地域コミュニティがしっかりしているので、まだ何とか乗り越えられると思う。それに向かって市役所も様々な部署で取り組んでおり心強い。福祉関係は子ども、高齢者、障害者などが一体化して横のつながりがとても良くなった。しかし、防災関係はまだ、横のつながりが弱いと思う。我々地域住民は何とか高齢社会を乗り越えられるよう努力するし、企業の方達は雇用促進のベースをつくってくれると思う。しかし、何としても必要なのはそのような企業に入ってくれる若い人達である。現在0歳の人達は20年後、現在の20歳よりは増えない。有効な取組を進めてもすぐに子ども達は増えない。先日、見学に行った新潟県湯沢町では、少子化・高齢化が進行する中、学校の耐震化が難しいので、住民の賛同のもと、保育園、小学校、中学校を1か所にまとめた（「湯沢学園」）。そこには学童保育や高齢者介護のデイケア施設まである。通園、通学などは町内全域に無料バスを通して。その取組の結果、若い人が増えているし、進学や就学などでいったん町外に出てもまた戻ってくる人が増えているという。0歳から15歳くらいまでの子ども達が常に顔を合わせていることにより、町外から戻ってきても町中が顔なじみという状況ができている。湯沢町は観光地ということで財源もあったのかもしれないが、相当の覚悟で町は取り組んだらしい。高齢者が多い中で、自分達の老後よりも未来に投資したという決断はすごいと思う。5年や10年で子どもは増えないし、現実には数字として出ているので、未来のための投資の集中にかかっていると思う。老後については地域住民に任せてもらって大丈夫だと思う。

- 〈委員〉新潟のある都市では、市民と行政をつなぐコーディネーターを養成し、活躍している。そういう仕組みをぜひ導入してほしいし、もっと高齢者を活用してほしい。高齢者はボランティアでも喜んで力を貸してくれると思う。
- 〈委員〉元気な高齢者は医療費の削減につながるが、何でもボランティアに任せるとなると、若い人達の職がなくなってしまう。例えば傾聴ボランティアで高齢者施設などに行っても、シーツ交換など職員がすべきことには手を出すべきではないと思う。ボランティアでできることと職員がすべきことは分けて考える必要があると思う。高齢者が遊ぶことは良いと思うし、それにお金をたくさん使ってくれるのは良いが、働くことは若い人達に譲ってほしいと思う。
- 〈会長〉安中は NPO やボランティア団体同士の情報流通が弱く、中間支援組織もない。中間支援センターの必要性について市民会議で意見が出てきたようだが、中間支援組織があれば、コーディネーターの役割を担うことができるし、情報も流通できると思う。
- 〈事務局〉防災面の横の連携について、災害対策基本法が改定され、災害時、特に配慮を要する「要配慮者」のうち、災害発生時等に特に避難支援を要する「避難行動要支援者」の名簿作成が市区町村に義務づけられた。そして、災害時には個人情報保護より人命が優先され、消防などに名簿等の情報提供を行う。ただし、日頃からどこにどのような人がいて、災害時にその人達を地域でどのように避難させるかという情報は流すことができない。そこで、市の福祉関係部署では、「避難行動要支援者」の中で情報提供に了承をいただける方の名簿作成に取り組んでいる。一方、危機管理課では、自助、共助、公助のうち、共助に力を入れており、それを担うのが自主防災組織である。現在、安中には 16 の自主防災組織があり、さらなる組織化を進めている。
- 〈委員〉それはたいへん重要な話であるが、どこでそれを取りまとめているのかわからない。私の会社では、トラック燃料の地下タンクと自家発電設備を持っており、停電時でも緊急車両などが燃料を供給できる。それを災害時に活用してもらおうと市役所に話をしたところ、警察、消防との調整を市役所ではなく私たち自身がやらなければならなかった。こういう縦割りの仕組みは他にもあると思う。DMO の立ち上げにもそういうことへの対応の必要性があった。観光振興については、様々な機関や団体が独自に取り組んでおり、良い取組もたくさんあるが、情報が一元化されていないため、様々なイベント等がバッティングしてしまっていた。そういう問題を解決するために立ち上げたという側面がある。情報を一元化し、インターネットで提供する仕組みをつくるのが DMO の大きな目的の一つとなっている。
- 〈会長〉基本構想（素案）について、他に意見等があれば後日メール等でいただきたい。

（２）第２次安中市総合計画前期基本計画（素案）について

〈資料２に基づき NPO ぐんまより説明〉

- 〈会長〉本日は時間も限られているが、全体を見て気づいた点等あれば意見をいただきたい。
- P.41「3-6 子育て支援の充実」を見ても、虐待防止やその後のケア虐待に関する記述が見られない。DV に関する記述はあるので、それに含まれるのか、検討してほしい。

- 〈委員〉 P.49「4-2 小・中学校教育の充実」について。藤岡市では婦人会が、花壇の整備など学校教育にいろいろと参加している。安中市でもそのためのコーディネーターがいれば、学校教育に第三者が関わるることにより、子ども達との交流を図ることができるし、いじめなども減らせると思う。
- 〈委員〉 P.33「3-2 医療体制の充実」について。ここにある「地域包括ケアシステム」は、介護保険制度の範囲内のものか、それともその範囲を超えた安中市独自のものか。言葉自体も分かりにくいので、注釈があったほうが良いと思う。
- 〈事務局〉 制度の範囲内のものと認識している。注釈は対応したい。
- 〈委員〉 P.35「3-3 地域福祉の充実」について。「現状と課題」にボランティアセンターに関する記載があるが、これは社会福祉協議会の中にボランティアセンターの事務局があるので、「「ボランティアセンターの」」は削除してほしい。P.36の「ボランティアセンターの運営強化」の記載はこのままで良いと思う。
- 〈委員〉 P.37「3-4 高齢者福祉の充実」について。「まちづくりの目標」として認定者数が上がることが目標値となっているが、認定率は下げることが目標とすべきではないのか。
- 〈委員〉 2025年にはいわゆる団塊世代が、要介護のリスクが高い後期高齢者になるため、認定率が上がるのは避けられないのだと思う。
- 〈NPO ぐんま〉 人口推計によると、分母となる高齢者人口が減少する中で、この目標数値でも推計値より低く設定しているのだと思う。
- 〈委員〉 「引きこもり」の文言がない。「4-2 小・中学校教育の充実」の中で不登校については記載があるが、近年、高齢者の引きこもりが増えているので、地域福祉施策など、どこかに文言を加えてほしい。
- 〈委員〉 シングルマザー、高齢者の一人暮らし、貧困家庭の3つが大きな課題だと思うので、それらに目配りした計画を検討してほしい。
- 〈委員〉 P.41「3-6 子育て支援の充実」について。P.32（3-1 疾病予防・健康づくりの充実）の「施策展開の方向」で「安心して子どもを産み」とあるが、安中には夜間の小児医療機関がない。それについて伊勢崎市では市民病院と医師会病院が毎日交代で対応しており、まったく心配がないという声を聞く。安中では救急車で40分かけて公立藤岡総合病院まで搬送されたりする。緊急時に病院に連れて行ける環境は重要だと思う。安中には産婦人科もない。移動手段がなければ大変なことだと思う。高崎や富岡の病院までも行くのに時間がかかる。
- 〈委員〉 先ほど話があった新潟県湯沢町では、子どもが産まれると10万円が支給される。そういう制度の充実もできる範囲で検討すべきだと思う。
- 〈委員〉 先ほど安中榛名駅の周辺住民の話があったが、高齢化などで車の運転ができなくなると、その不便さに気づくのだと思うし、運転できなくなる前に気づいた人は東京などに戻っているのだと思う。
- 〈会長〉 東京から移り住んでいる人の中には、住民票を東京に残したままの人が少なくないと思う。その人達の多くは高額所得者だと思うので、早めに安中市民への移行を促したほうが良いと思うし、（税収増により）自主財源を増やすことにもつながると思う。

- 〈会 長〉発達障害に関する記載が見られない。
- 〈委 員〉発達障害は、障害者として認められたこともあり、近年増加している。これまでも存在していたが、障害者として診断できるようになったという側面もあると思う。
- 〈委 員〉P.41「3-6 子育て支援の充実」について。「施策展開の方向」で休日保育について記載があるが、3人子どもがいる場合に、一番下の子どもだけ預けて上の子達と一緒に遊びに出かける例があると聞く。心身のゆとりとして良い面もあるかもしれないが、その分、保育のためのコストもかかるし、適正利用の観点などからの検討も必要かもしれない。病児教育の整備については、子どもがインフルエンザになれば保護者も仕事も休まなければならないので、ありがたいことだと思う。
- 〈委 員〉P.33「3-2 医療体制の充実」について。市民アンケート結果を見てもニーズが高い。市内の診療所が充実してきている一方、碓氷病院は週1回程度しか開設されない診療科目もある。ぜひ重点的に取り組んでほしい。ところで「まちづくりの目標」を見ると、公立碓氷病院医師数の最終目標値が中間目標値より減少しているのはなぜか。
- 〈NPO ぐんま〉記載ミスである。「19人」に修正してほしい。
- 〈委 員〉基本構想における「まちの将来像」について。「文教都市」とは具体的に何を意味しているのか。それと政策大綱とのつながりも分かりにくいと思う。
- 〈委 員〉子育てについて。ハイリスク妊娠を受け入れる医療機関が安中市内になかったため、群大病院で出産した。安心して子どもを産み・育てる流れが安中市内だけで完結できない現状を踏まえると、碓氷病院では高度急性期医療ができないので、市外近隣の医療機関との連携が必要となる。子育ても安中市内で完結できるのか、市内近隣との連携が必要なのかを考えていく必要があると思う。
- 〈委 員〉ワーク・ライフ・バランスについて。学童保育の環境が劣悪だ。環境改善を要望しているがこの数年まったく変化が見られない。仕事によっては午後7時くらいまでの保育時間だけでは対応しきれず、その後もファミリー・サポート・センターに預けるとなると、特に子どもが3人などいると大変なお金がかかり、自分が稼いだお金をすべてそれに費やすほどになる。そのような状況の中、安中で子どもを産み・育てることにメリットはあまり感じられない。メリットが具体的に明示できると良いと思う。
- 〈委 員〉P.33「3-2 医療体制の充実」について。国は病院を減らす方向性を打ち出しており、碓氷病院が高度急性期医療を担えない現状を考えると、地域医療連携をさらに強化していく必要があると思う。例えば現状で中心部から遠い山間部に住む人が急性心筋梗塞になった場合、2時間以内で搬送できるかを考えると厳しいと思う。碓氷病院は急性期医療に対応しているが、市内の民間病院でも相当数の手術がなされていると思うので、そうすると碓氷病院にお金をかけてどこまでの医療を求めるのかを考えていく必要があると思う。例えば、すぐに血管を広げるような対応が必要な場合、碓氷病院でできるのだろうか。碓氷病院の急性期医療をどのように捉え、どこまで医療機器の更新、人材の確保などを考えるのか、医療は多くの予算が必要となるので、考えていく必要があると思う。
- 〈会 長〉立派な病院をつくるのも1つの方法だが、今ある医療資源を病状に応じて仕分けするほ

うが現実的な着地点かもしれない。そのためにはドクターヘリの出番がもっと出てくるかもしれない。安中市の地域医療の方向性については、担当課にきちんと、冷静に考えてもらいたい。先程の心筋梗塞の話は現実起こりうる深刻な問題といえるかもしれない。初期段階で応急措置をどうするかということを含めた検討も必要だと思う。

〈会 長〉 P.51「4-3 生涯スポーツの推進」について。「5年後の取組の方針」にもあるが、施設の老朽化が進んでいるので、ぜひ実施計画の中で取り組んでほしい。10年後には群馬で40数年ぶりに国体が開催されるという話を聞く。それを見据えて具体的に取ることも実施計画で検討してほしい。

〈会 長〉 国体は開催せざるを得ないような見えないプレッシャーを国から受けているとも聞いている。今ある施設の有効活用が主体になると思うし、あかぎ国体の時のように総合優勝を無理に狙わない、身の丈に合った国体になると思う。施設整備は簡単ではないと思うが、そのためにネーミングライツのような仕組みもの活用も考えられると思う。

〈委 員〉 P.53「4-4 芸術・文化の振興」について。「拠点」という記載があるが、実際、安中市内には拠点となるような施設がなく、高崎の施設を借りようとしても、希望者が多く、抽選となるため、なかなか利用することができない。小さな演奏会などに対応できる施設が市内にあれば、高崎の施設が利用できない人達の受け皿にもなり、人も集まると思うので、ぜひ検討してほしい。

〈副会長〉 P.27「2-6 防災・減災対策の推進」について。自主防災組織の話があったが、市内16地区で101の行政区があるが、自主防災組織があるのは16行政区だけである。自主防災組織に限らず、地区での活動では組織のリーダーがいかに末端の住民まで内容を理解させられるかが重要であり、そのための取組が必要だと思う。少なくとも78%程度まで組織率を上げたいと考えており、皆さんにも理解と協力をお願いしたい。

〈会 長〉 本日の協議はこれまでとしたい。前期基本計画（素案）について、他に意見等があれば後日メール等でいただきたい。

（3）その他

〈事務局〉 3点ほど連絡がある。1つ目は、他に意見等があれば、電話、メール等、どのような手段でも良いので事務局までいただきたい。2つ目は、次回は10月下旬に開催したいので、日程については改めて連絡したい。3つ目は、次回の審議内容について。主に前期基本計画（素案）について引き続き審議をお願いしたい。本日の審議内容を反映したものを事前に送付したい。

〈委 員〉 前期基本計画の進捗管理について。「まちづくりの目標」は誰が管理するのか。この審議会の役割はどうなるのか。我々への情報提供も必要だと思う。

〈事務局〉 基本構想（素案）P.4に記載したように、PDCAサイクルを回しながら管理していきたい。

〈委 員〉 進捗管理には市民協働も必要だと思うし、1年ごとに管理したほうが実効性を高められると思う。

〈会 長〉 検証部会は実施したほうが良いと思う。ただし、市レベルの部会では「検証疲れ」にな

る可能性もあるので、それを踏まえて検討してほしい。

4. その他

〈事務局〉本日配布した「みんなに知らせたい 安中の“魅力”百選」チラシについて。昨年度から取り組んでおり、百選を目指しているので、ぜひ応募してほしい。

5. 閉会

以上

議事録署名人

阿久津 浩司

議事録署名人

三宅 陽子